

※以下は要約文となりますので、詳細は配信動画等をご覧ください。

【記者からの質問】

NHK／今回の予算編成に当たって、知事が込めた思いは？

知事／物価高騰対策を行う中で、今を支えながら未来を開くことを重視した。きめ細かく網羅的な対策が打てるようにし、佐賀独自の支援など工夫した。新年度予算では、中期的な観点に立ち、教育、人づくりに力を入れようと、教育委員会とも連携し予算をつくった。

女性に関して、MONDA 症候群を強く意識した人ほど県外に出ている、というデータがあった。女性が生き生きと暮らしていく環境づくりが、社会全体の好循環につながると考え、あえて「男女参画」ではなく「女性」とした。

シニアの皆さんに生き生きした毎日を送ってもらうためにも、さまざまな高齢者の組織を大事にしたい。特に、ゆめさが大学はパワーのある人が集まっている。生涯学習を通じて、佐賀県を前に進めるためにも活躍してもらいたい。

以上の点を注視しながら目の前の課題をみると処方箋が見えてくると考えた。目先の課題ではなく、その原因に対応していく予算とした。

NHK／山口県政3期目の集大成として意識した点は？

知事／佐賀県を良くしようという知事の思いと、自分がどうかというのは別問題だと思う。先を見据え今年は何をすべきか、という観点で判断した結果。任期の区切りは意識していない。

NHK／県立大学設立に向け、新1年生への広報は？

知事／県でつくる大学だから、県立大学では佐賀県を担う人材を育成したい。そして、局面を打開する「チェンジメーカー」を育てたい。そのような考え方は、県立大学への進学の有無に関わらず、高校生にいい影響を及ぼすと思う。学びと実社会での体験を伝え、将来像を描いてもらいたい。そのような高大連携を早い段階から始めたい。

読売新聞／吉野ヶ里の「魅せる収蔵庫」事業の完成時期やスケジュール感は？

知事／基本計画策定後の予算規模次第。昨今の状況を踏まえ、見積りには様々な意見がある。財政的制約はあるものの、中途半端なものになるようではどうかとも思う。そのあたりを整理しながらスケジュールと事業規模が決まるのではないかと。

読売新聞／3つの「輝ける」という柱は、人口増や人材確保につながるのか。

知事／県内の日本人流出率（月単位）の改善など一定の手応えがある。これまでの取組

をより尖らせると、3つの「輝ける」が出てきた。事業に反映させることで成果につなげたい。

読売新聞／2月補正のみの事業があるのか、それとも1つの事業に、それぞれの予算を賄って進めていくのか。2月補正の代表的なものを挙げるとすればどれか。

知事／事業ごとに整理されているが、横につながっているものもある。11月補正は特別高圧、LPガスの支援、医療福祉、保育施設への支援。多くの事業は、2月補正又は当初予算に含まれる。

職員／2月補正のメインはプレミアム商品券。当初のメインは教育関係。

知事／11月の追加補正は主に3つ。ほとんどは2月の87億円に入っている。重点支援地方交付金は、昨年末に出てきたもの。2月補正に間に合うよう努力した。

当初予算は4月以降になるが、2月補正は3月から着手できるため、県民の皆さんが効果を実感できるよう工夫して財政編成をした。

朝日新聞／高校の和式トイレの現状と全国との比較は？

知事／詳しくは担当課に聞いてほしい。特に和式が多い高校があり、洋式化を優先的に進めたい。トイレが5つあっても、4つは和式で、1つの洋式に順番待ちができてしまう。5つすべてを洋式にすれば、1基当たりの人数が22人となり、SAGAアリーナと同程度になる。工事は時間がかかるため、順次進めていく。

朝日新聞／私立無償化がきっかけで県立高校のトイレ整備を進めるのか。

知事／私立はもともと設備がよく、無償化になれば、さらにいろんな名目で投資ができる。今後、県立高校の子どもたちにそういったところでつらい思いをさせたくない。いい教育を推進する上で、設備環境を整えたいと思った。

佐賀新聞／予算編成で苦労した点と、県庁内で共有したテーマや指示があれば。

知事／現場目線で議論できる県庁になってきたことを誇りに思う。知事就任当時は、いかにも県庁然としたところがあったが、最近では私が大きな方向性を示し、職員が主体的に考え、各部が連携する形になった。今後は、新規事業に挑戦しつつ、どこかで見切りをつけ撤退する勇氣も必要になる。自己チェック機能が働くようになれば、サステイナブルな県、予算編成になると思う。

佐賀新聞／予算編成では、先ほどおっしゃった「大きな方向性」を示したのか。

知事／3つのポイントというところを示した。女性の幹部が育ち、活発な意見が出た。同感できるところと、私なりの価値観を融合させるのがポイントだった。例えば、私は「男女」と言っていたが、女性がいいと言われ納得。そのように1つずつ組み立てた。

佐賀新聞／予算に名前をつけるとすれば？

知事／自然と県民が動き出して未来を切り開く予算。県庁が強引に持っていくのではなく、環境を整えた。いわゆる圃場整備のような工夫をした。

日経新聞／「宙への扉プロジェクト」が動き出すのはいつごろか。また、県の主導で企業と共同で行うのか、国の協力はどのような形なのか。

知事／これは私が言い出した事業ではない。JAXA との連携フィールドを持つなかで、部からの提案。道路陥没事故を解決できる可能性のある今後が楽しみな佐賀県独自の事業。担当者から今後の見込みを。

県職員／1、2年の実証を行い、スケジュールを検討し、事業の見極めを進めたい。

日経新聞／Society5.0の5.0の意味を教えてください。

県職員／Society4.0はIT社会。5.0になると新技術を使った社会の名称で使われている。

知事／広い意味でSociety5.0のうちの1つの事業という組立て。

NHK／当初予算の説明の冒頭で社会保障費への言及があった。予算編成をするなかで社会保障費が膨らむ危機感だったのか、それとも何か意図があるのか。

知事／私たちの予測以上に社会保障費が伸びている。毎年15億円の増加を見込んで財政計画を組んでいたが、25億円以上かもしれない。福祉政策を充実させると更に増える。私は、社会保障は充実させるべきだと考えているが、そこはやはり財源とセットだと思う。税について国民と共有したほうがいい。それをどう国民の皆さん方に伝えるのかも考えていただけたら、という趣旨。それが、佐賀県の財政を考える上でもリンクする。そこからの危機感。

佐賀新聞／様々な現場で人材不足。介護の人材確保も厳しい中、シニア世代への事業参入もあるのか。

知事／人材不足の中、高齢者も介護する側になっている。しかし、昔に比べると若くて元気なシニア世代も多い。

介護の現場に機械が入り省力化されれば、70代でも働ける場所になる。シニア世代が介護を受ける側と決めつけず、自主的に働けるフィールドができたらと考えた事業。

佐賀新聞／輝けるシニアとは、仕事よりも社会活動の意味のニュアンスが強いのか。

知事／いろんな形がある。シニアの皆さんが、健康維持も含め生き生きとしてほしい。県内の元気なシニアの皆さんの輪が広がれば、もっといい県になる。「輝ける」というのは、そのフィールドがあるということ。